

ひかり

2022年7月号



St. Luke

日本聖公会 三光教会

第705号

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nsskk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912年(大正元年)11月2日

「あなたがたは悪い者でありながらも自分の子どもには良い物を与えることを知っている。まして天の父は、求める者に聖霊を与えてくださる。」

(ルカによる福音書 11:13)

アナニア II

—使徒 9・10・19

司祭 アモス金 キム 大原 デウオン

神さまの想像力

アナニアがまさに道の案内人でした。彼はエルサレムで執事ステファノが殉教したことを知り、迫害の黒い影がダマスコに近づいていることを感じていました。その迫害の先頭に立っているのがサウロという若者であることをも知っていました。ところが、幻の中で、主イエスはそのサウロを助けると言われました。迫害者を助けるとは、快く応じがたい指示でした。でも、主はアナニアをせき立てられ、「彼は、私が選んだ器である。私の名のためにどんなに苦しまなくてはならないことを、彼に知らせよう。」(15〜16節)と言われました。

神の想像力は驚くべきものでした。神さまは御業を妨げていたサウロをむしろご自身のための働き人にしようとしているのです。無から有を生み出し、海を割って

道を作られ、荒れ野の岩から水を出して飲ませ、捨てられた石を隅の親石とならせる神さまが、迫害者だった者を手入れてご自身の器にしようとしているのです。

情熱の方向転換

ついに、アナニアは「行け」という神の命令に従います。神さまのなさることが理解できるわけではなく、サウロへの恐れが消えたわけではありませんが、彼は御言葉に頼ってサウロのところに行きました。神さまを完全に信頼するからできることでした。これが信仰です。信仰とは、たとえ理解できなくても、神さまの思いがわたしたちの思いと異なり、神さまの道がわたしたちの道と異なることを認めて「アーメン」と応えることなのです。

アナニアはサウロに会ってその上に手を置き、「兄弟サウロ、あなたが見えるようになり、聖霊で満たされるために、主イエスがわたしを遣わされた」(17節)と言いました。アナニアはサウロを「兄弟」と呼びました。兄弟に当たるギリシア語「アデルポス(adelphos)」は「子宮」を意味

する「デルプス(delpus)」から派生した言葉です。アナニアはサウロを骨肉として受け入れたのです。すると、目からうろこのようなものが落ちました。誤った情熱のうろこ、偏見と競争心のうろこ、義とされるためのうろこが落ちて消えると、世が新しく見え始めました。新しい情熱にとらえられました。それには憎しみも恨みもなく、自分を他人に比べる必要もありませんでした。まことの平和と喜びが内側から湧き出ていました。そこで、サウロは洗礼を受け、後ほど名前は「パウロ」と変わり、使徒となるわけです。

今のアナニアたち

アナニアは教会史においてそんなに有名な人ではありません。でも、彼の献身を通して一人の人がまことの光に出会い、その光を世に伝える偉大な伝道者になりました。

わたしたちは人生の中で多くのアナニアたちに出会ってきたはずですが、予期しなかったときに近寄って光を照らしてくれた人がいたでしょう。皆に背を向けられたときにもずっとそばで守ってくれ

た人がいたでしょう。そのようなアナニアのような人たちがいて、立ち直ることができたのではないのでしょうか。もしかしたら、わたしたち自身がアナニアかもしれません。誰かに近寄って恵みをあらわすとき、わたしたちはすでにアナニアです。わたしたちは互いに愛を借りて生きているのかもしれない。

7月～9月の予定

◆7月

24日(日) 聖霊降臨後第7主日

25日(月) 使徒聖ヤコブ日

26日(火) おとめ聖マリヤの母アンナ

31日(日) 聖霊降臨後第8主日

◆8月

1日(月) 8月逝去者記念礼拝

6日(土) 主イエス変容の日

7日(日) 聖霊降臨後第9主日

8日(月) 司祭修道士ドミニコ

10日(水) 殉教者執事ローレンス

11日(木) 修院長おとめクララ2

14日(日) 聖霊降臨後第10主日

15日(月) 主の母聖マリヤ日

18日(木) ヘレナ

20日(土) 修院長教会博士ベルナルド

21日(日) 聖霊降臨後第11主日

24日(水) 使徒聖バルトロマイ日

28日(日) 聖霊降臨後第12主日

◆9月

4日(日) 聖霊降臨後第13主日

5日(月) 9月逝去者記念礼拝

8日(木) おとめ聖マリヤの誕生日

11日(日) 聖霊降臨後第14主日

13日(火) 殉教者主教シプリアン

14日(水) 聖十字架日

18日(日) 聖霊降臨後第15主日

19日(月) 主教セオドル

20日(火) オーストラリア、

21日(水) オセアニアの殉教者

福音記者使徒聖マタイ日

いま、日本聖公会でおきていること(2)

前月号で現在東京教区と北関東教区は合同に向けた話し合いを進めていることをご紹介しました。多くの方にとっては突然の話だったと思います。

北関東教区・東京教区宣教協働特別委員会では、皆様の疑問にお答えするため、2021年11月に『宣教協働と新教区設立「Q & A」』を作成しましたので、その中からいくつかを抜粋してご紹介いたします。

(Q4) なぜ、新教区の設立を目指すのですか？

(A4) 単純素朴に、日本聖公会全体が変わっていくためです。

そのためには、まず自分たちの教区から変わっていくことが必要です。それも、在籍信徒数や財政規模の大きな教区との吸収合併ではない、今までとはまったく違う形、まったく違うヴィジョンによる、柔軟、かつ大胆な変革です。

教区という単位ではなく、教区を越えた、人と人、教会と教会、働きと働き等々のつながりを創造し、自力ではなく、互いに祈り合い、助け合うことを喜び、信頼する、新しい「教区」の創出が、これからの日本聖公会全体の変革には不可欠に思います。新教区設立は、実際には、北関東教区と東京教区が一度解体することによって実現する試みです。

新教区になっていく過程で、これまでとは異なる教区に属していたそれぞれの教会や働きが、神によって建てられたものとして対等に出会うことによつてこそ、ほんとうの意味での「互いを祝福し合う教会」へと変革させられると信じます。そのために、すべての教会や働きが神によって建てられていること、そして一人ひとりの聖職、信徒がそこに派遣されているという「召命」をあらためて感じたいと思います。そうして、わたしたちが「神の出来事」の中に生かされていることに立ち返り、教会としての歩みを新たにすることが、新教区設立の過程で起ることを願っています。新しい教区設立を目指す旅の中で、新たな神の家族との出会いがあり、そこに豊かな地平が広がっていることを信じます。

(Q5) 教区が独自に歩んできた中で、本当に教区を新設していけるのでしょうか？

(A5) 他の教区と合同することには多くの困難が伴います。それぞれの歴史、文化、特徴、やり方があってこれまでの時を過ごしてきました。それを他の教区と一本化することはなかなか難しいでしょう。北関東・東京教区の場合、北関東教区が伝道教区である期限は5年と定められていますので、その間に両教区のすべてのことをひとつにすることはできないかもしれません。ただ、できないことがあるからやらないのではありません。できることからコツコツと積み重ねていくというのが両教区の方針です。すでに共通の代祷表が用いられて、祈り合うことが始まっています。今後は共通のプログラムや教役者人事交流なども計画されていくことでしよう。

まず困難が予想されることは、情報伝達などの広報です。協議を進めている場だけで物事が進んでしまつては、教区新設は成しえませんが、皆ができるだけ同じ情報を同じ形で共有し、教会の一員として祈りながら、主体的に新設への歩みを共にし

ていくこと、つまり誰もが「お客さん」にならないようにすることが不可欠です。信徒・教役者の皆さんの賜物を用いて、より豊かな「教会」を築いていくために、広報にはたくさんの工夫と努力が必要です。

そしてもうひとつ難しいとされているのが財政の統合です。会計システムや教役者俸給体制などの統合は容易ではありません。特別な知識や経験をもっている方の参画が必要になるでしょう。2021年9月現在においては、統合のための努力は続けませんが、必ず5年後に統合させるといつかは持たずに、じつくりと筋道を立てていくと話合っています。

今、東日本宣教協働区内での協議が始まり、特に東京教区とは組織的なことのみではなく、お互いの「これまで」が交わつて豊かな「これから」が築き上げられていく、出合いが豊かさを生むという教会の楽しさが始まろうとしています。今後、戸惑いや痛み、苦悩や苦勞が伴う場面があるでしょう。でもその時を経て生まれる教会の楽しさを、実りが10倍にも100倍にもなることを祈り求める道を、一緒に歩んでいきましよう！

(Q6) 教区の新設は、日本聖公会の長期にわたる展望を見出せるのでしょうか？

(A6) 教区を新設することによって、教区の数はひとつ減ります。教区の数を減らすことだけが目的ではありませんが、宣教体制の強化と教区再編という目標の中で、大きな一歩となるでしょう。どちらかがどちらかに統合されるのではなく、新設すること、これは、新しい教区の目標や宣教ヴィジョンを再考し、共有していくきっかけになります。将来のことについて、いろいろな不安や厳しさを抱えている教区が、「これまで」を振り返りつつ、もう一度「これから」について協働して、ひとつの教区となることを目指して歩み出していくことは、日本聖公会全体の未来への希望になつていくことと思います。

編集後記

感染者が減つて、着座数を増やしご奉仕を再開した後また、新たな“波”というカブが流行りだし、あつという間に感染者の更新をしてしまいました。そこで教会から感染者を出さないことを頭において、私たちは今できることをやっていくしかないと思う毎日です。ですが、7月末でライブ配信が休止となり教会にいらっ

しやることがむずかしい方と教会の交わりの一手段として「ひかり」の発行を休むことなく続けようと考えております。今こんなことをして自宅などで教会生活を守っています等々皆さまからの寄稿、投稿を待ちしております。

教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が少なくなりました。土曜日の午前10時から1時間程ご奉仕ください。ご協力いただける方は直接参加してください。

はじめて教会にいらした方へ
礼拝様式に馴れない方は椅子にお掛けになったままで結構です。

- 礼拝中の献金は、信施金として伝道のために献げられるものです。金額は自由です。
- わからない点は隣の席の者か案内係にお聞きください。

礼拝のご案内

■主日礼拝

午前 7:00 早祷・嘆願
午前 7:30 聖餐式
午前 9:00 ステパノ会
(日曜学校)礼拝
午前 10:30 聖餐式
午後 4:00 夕の礼拝

■平日礼拝

月曜日から土曜日までは、
毎朝6:30の早祷に引き続いて聖餐式

日本聖公会 三光教会 教会報「ひかり」 2022年7月号(第705号)

発行者: 司祭 金 大原 編集・印刷: 三光教会広報委員会